

しろがねり 夏祭りにぎやかに、神輿、山車運行



権現神楽の歯打ちや子ども御神輿、山車の行列でにぎわうパレード

八戸

八戸市白銀地区の白銀振興会（荒川繁信会長）が主催する恒例の「しろがね夏祭り」が21、23日の3日間、白銀公民館を主会場に開かれた。多くの地元住民が集い、盆踊り大会や子ども御神輿、山車が練り歩くパレードで過ぎゆく夏を彩った。

地域住民の世代間交流や郷土愛の醸成を目的に毎年実施。21、22日の夜は盆踊りが行われ、浴衣姿などの住民が共に輪をつくって踊りふけた。

最終日の白銀まつりパレードには、地元の小中学生や八戸学

院光星高の生徒らを含む約120人が参集。同地区の「白銀四頭権現神楽」による獅子頭の歯打ちを先頭に、同館周辺を約2時間かけて練り歩いた。

子ども御神輿の子どもたちは、イカを模したかぶり物「イカジン」を着用。山車を引く高校生らは法被姿で威勢よく「わっしょい、わっしょい」と声を響かせた。沿道にも多くの住民が集い、「かっこいいよ」と勇姿を撮影したり、獅子頭に頭をかんでもらいながら息災を祈ったりと、地元ならではのにぎわいを楽しんだ。

（井上周平）